

2. 計画を実現するための基本姿勢（市民主体のまちづくり）について（ワークショップ3）

【A班】

A班で最後に話し合った内容は、「市民主体のまちづくりの推進」について3つの議題で討論しました。

1つ目は市民自治によるまちづくり、情報の提供・共有の推進です。まずはこのような定期的な市民会議を設け、市民は自治会や近所付き合いをより大切にする気持ちを持ち、市民参加のホームページ作りではNPOのような法人団体を外郭にして、市民と行政のパイプをより一層強めて進めていくとよいとの意見が出ました。情報提供に関して、今の世の中ではインターネット等のデジタルとポスター等のアナログ間において、どうしても一元化できないという問題があります。その2つを使い分け、例えばアナログであれば駅や病院にポスターを掲示等することで、もっと情報を提供していくことができるのではないかと思います。また、電光掲示板の有効活用による、経費の削減や管理の負担軽減も考えられます。

2つ目に、市政に市民意見を反映させる仕組みづくりです。ワークショップは、基本的には市民同士が話し合っただけの意見を行政に取り入れてもらうものですが、それを評価して頂き、修正があればまた会合して頂きたいと思います。その会合に参加することにより、市民側と行政側で意見交換ができればもっとよいと考えました。他に変わった意見としては、北欧には夜間議会といって、夕方から夜にかけて議会を開催して意見交換を行い、時間的な余裕のない方も参加できるような仕組みもあります。これを参考に、今後見直しを図ればよいと思います。

次は、協働によるまちづくりです。子育て、まちの美化、活性化、お祭り等、興味の湧くような自治的な地域イベントをどんどんつくり、市民の役割となりますが、このようなことを自治の推進に活かしていくとよいと思います。これは、私達市民1人1人の意識改革や、責任と自覚を持った上で市政を推進していくことが必要であるとまとまりました。

A

班

市民主体のまちづくりの推進

市民主体のまちづくりの推進

班でまとめた「市民主体のまちづくり」の考え方を記載してください。
話し合いの中で、市民主体のまちづくりに向けた具体的な仕組みづくりについての意見が出された場合は、その内容を記載していただいても結構です。

1. 市民自治によるまちづくり

(1) 情報の提供、共有の推進

定期的な市民会議を設ける
自治会、近所付き合いを大切に
市民参加のHPづくり - NPOを外公団体
市民からの情報の取込みが悪い → フォードバックを、
デジタルとアナログをつかいはけ
(かいしん報など)
駅、病院などにホスト、発光パネル板を
市民の同意

(2) 市政に市民意見を反映させる仕組みづくり

コソニイサリで話せる場を明を設ける
市民からのアプローチ (E-mail, ほか等) の活用 pointを付与
評価をする。修正の機会を
夜内議会 (地域からの声) を取りこむ スピードと
テニシの会議を

2. 協働によるまちづくり

(1) 地域での協働による自治の推進

近所の人で、ホラニテを求めて協力を
地域住民の交流を、ホラニテに参加を
地域イベント (子育て、街の美化 活性化、お祭り) の協働
子供も参加し参加
小学校 (先生方も) へのイベントを

人々の意 (つかいか) 市民が家族というコンセプト

【B班】

市民主体のまちづくりを推進するためには、市民1人1人の意識が変わらなければならないという結論でした。意識改革をする上ですべきことは、意外に当たり前のことであるのかなと考えました。毎日コミュニケーションを密にとることや、隣に住んでいる人に挨拶をすること等、当たり前のことを毎日積み重ねていくことにより、隣の人を知り、まちの人を知ることです。

そして、コミュニティの最小単位は、自治会や管理組合ではないか。それが1人1人の顔を確認できる単位であるとの意見が出ました。市民が主体的に市の動きや周りの人達に関心を持っていくこと、また、地域を1人1人の市民が盛り立てていくのだという意識づくり、行政と一緒にやっていくという意識に変えるということです。

面倒臭いという理由で自治会に参加しない人達もいますが、阪神大震災の時のように誰かに頼らなければならない時に、横のつながりが大切だと誰かが言うと、自治会の加入率がぐんと上がったそうです。では、何かなければ自治会の加入率は上がらないのか。しかしその何かを期待することはリスクキーなので、1度言ってダメなら2度言う、2度言ってダメなら3度言うことにより、参加する意義を感じてもらう必要があります。自治会のメリットは、困った時に相談ができる、子どもが遊んでいる時にお年寄りに見守ってもらえる、同じ悩みを共感できること等で、そのようなコミュニティをつくるのが市民の意識改革において必要であると考えました。

その中で行政にお手伝いしてもらいたいことは、地域に人が集まる拠点をつくることです。新たに作るのではなく、いまあるものを有効利用するのです。いまは、1つ1つの建物に役割があるのですが、廃校を利用した一つの拠点で、高齢者施設、障がい者施設、児童館、図書館、コミュニティセンター等、多機能に様々なものを抱合することで、その拠点がコミュニティを支えていくような仕組みをつくることのできるのではないかと思います。市民1人1人がアクションを起こして、我々が主権者であると意識付けること、また、市長のお話を直接受けることでどのようなことを考えているのか分かりますので、市長の声が市民にも聞こえると、コミュニティの育成や市の運営の中でも我々がお手伝いできることが多いのではないかと思います。

B

班

市民主体のまちづくりの推進

班でまとめた「市民主体のまちづくり」の考え方を記載してください。
話し合いの中で、市民主体のまちづくりに向けた具体的な仕組みづくりについての意見が出された場合は、その内容を記載していただいても結構です。

『市民自治によるまちづくり』

- ・関心を持つ。
- ・地域住民自身で解決する意識
やってみようから → 一緒にやってみよう。(市民と行政が)

◎目の届く範囲のコミュニティとして「自治会」を活用する。

自治会に参加しないデメリット。面倒臭い。(人間関係・役員作業)
お金がかかる。



それで参加する意味を知る、感じる。困った時に相談できる。
・子供やお年寄を見守る目がある。
・同じエリアで、同じ悩みを解決する。

- ・拠点を持つ。用途別に存在している既存の施設。(公民館・児童館)を、地域に必要なものを補う拠点として活用する。
- ・市民一人一人が、小さなアクションをおこなう。(挨拶やイベントへの参加)
- ・市長よりコミュニケーションを取ってもらう。(伝わりやすい)

市民主体のまちづくり

【C班】

C班では、大きく2つに分類をしました。その1が、市政検討会の開催です。市民と行政との情報の行き来があまり行われていないので、市長や担当課長以上の人が参加し、市民の声を聞いてもらいたいと思います。年1回以上等、定期的を開催をし、市民主体を自覚し、せっかくつくったコミュニティセンターを使えるとよいと思います。これにより、議論内容を市民にフィードバックし、参加者のやる気に繋げるものです。また、自治会にも協力及び支援をして頂き、税金の使い道を説明して頂く等して、行政が何を行っているのか市民も知ることができる場を設けます。これは継続的に行うことで、徐々に改善していければと思います。提案をしました。条例等市民が知らないことが多いので、どのように情報を共有するかについては、結論が出なかったため課題として記載しています。

住みたくなるまちづくりに進みます。左側のみんなが住みやすいまちとして、廃校等を保育施設にできれば、有効利用ができるのではないかと思います。また、ほとんど取れていない育児休暇をもっと取れるように努力していくこと、他には、独居老人が増えているとのことなので、地域住民でケアしていければよいとまとめました。みんなが働けるまちとして、亡くなるまで働ける仕組みづくりです。聞いた話ですが、スウェーデンでは定年がなく、仕事をしていない人というのは、仕事を探しているか、次の仕事をするための訓練をしているという国柄らしいので、このようなことができるとよいと思います。

また、多摩市の仕事は多摩市民を優先することです。税金を払っている自分達に戻ってきたら嬉しいですし、これでワーキングプアが少しでもなくなればということで提案しています。これらによって税収もアップするので、サービスもよくなればよいなとまとめました。

C

班

15:46 ~ 16:10

市民主体のまちづくりの推進

班でまとめた「市民主体のまちづくり」の考え方を記載してください。
話し合いの中で、市民主体のまちづくりに向けた具体的な仕組みづくりについての意見が出された場合は、その内容を記載していただいても結構です。

1 市政検討会の開催

・市長 and 担当課長 以上が参加し、市民の声を受けとめる。

継続

・定期的(年回以上)に開催し、市民主体を自覚する。

・議論内容を市民全体へフィードバックする。

→参加者のやり取りがわかる。

・自治会とも密に連携をとる and 支援する。

・税金の使い道を説明する。

課題

・条例等、細かいことが多い

・どのように情報を共有するか

市民主体のまちづくり

2 住みたくなる街づくり

・みんなが住みやすい街

・廃校を活用(保育施設など)

・育児休暇の拡充

・地域住民で独居老人をケア。

・みんなが働ける街

・とめるお役所は仕組みづくり

ex. スカベン、職場や訓練の提供

・多摩市の仕事は、多摩市民を優先

→ワーキングプアをなくす

⇒ 税金アップによるサービスの提供

【D班】

市民主体のまちづくりの推進ということで、やはり市民主体というなら、市民が物事を知っていなければならぬと思います。私のような若い人は特に、昨日今日の議論を進めていく中でまちのことについて知らないことが多過ぎたので、もっと知ろうとすること、行政はもっと分かりやすい情報提供をすることが必要であると考えました。

図の右側は、行政と市民との関係です。行政側が情報提供をして、市民がその情報をチェックして要望を出し、他にはネットの掲示板に書きこむという案も出ました。そして行政に見直しをして頂くというループが続けばよいと思います。

左側も、同じような話となるのですが、計画、実施、評価というループが続くとよいと思います。市民も地域や近隣の人達と連携して情報を収集し、コミュニケーション意欲を強めるという話でまとまりました。行政はもっと分かりやすい情報提供を、パンチの効いたPRをしてほしいとの意見でまとまっています。その他には、まちの美化、公園や公共の場でのマナー、ボランティア、まち興しのイベント等に市民が積極的に参加していくことで、個人の意識改革を行うとの話となりました。

D

班

市民主体のまちづくりの推進

班でまとめた「市民主体のまちづくり」の考え方を記載してください。
話し合いの中で、市民主体のまちづくりに向けた具体的な仕組みづくりについての意見が出された場合は、その内容を記載していただいても結構です。

市民主体のまちづくり



街の美化、マナー、ボランティア、街おこしのイベントなど
積極的に参加する → 個人の意識改革

【E班】

市民主体のまちづくりについて、課題の印象、情報提供・共有のアイデア、市民の意見を伝える方法の3つの項目に分けてみました。

課題の印象としては、市民の意見がなかなか反映されない、行政の意向が見えない、自治基本条例の実行力があまりない、緑に加えて多摩の魅力が分からないとの意見が出ました。多摩市に住んでいて良かったことのランキングでも、緑が多いことが1位として挙げられていましたが、それに加えてプラスアルファとして何かあるとよいとの意見がありました。

次に、情報提供・共有のアイデアとしては、市が市民の役割をきちんと提示する、情報提供・共有の推進あるいは各部署の役割の明確化、そして市のデジタル化ですが、これは情報配信をメールで行うことにより、より若者に関心を持ってもらえるのではないかということです。ただメールで届くだけでは面白くないので、様々な使えるクーポン等をつけることで、より関心を持ってもらえると思います。また、市役所には「堅い」とのイメージが強くあるそうなので、そのようなところでもアナログからデジタルに移行する意義があると考えました。他には、市民の意思が行政に反映されたことを行政がアピールすることで、市民も自分達の意見が通ったのだと分かるので、強くアピールした方がよいと思います。

次に、市民の意見を伝える方法としては、インターネットをもっと活用して負担の少ない参加を目指す、市全体にマーケティングをして、意見をまとめてホームページに載せ、できることとできないことを明示する、情報伝達手段を確立させる、市民の本件の問題意識を徹底させる、気軽に話し合える場づくりとの意見が出ました。やはり関係が希薄になっているご時世なので、気軽に話し合える場を設けると、より関係を濃く持てるよい機会なのではないかと思いました。



市民主体のまちづくりの推進

班でまとめた「市民主体のまちづくり」の考え方を記載してください。
話し合いの中で、市民主体のまちづくりに向けた具体的な仕組みづくりについての意見が出された場合は、その内容を記載していただいても結構です。

▼ 課題の印象

- ・市民の意見がなかなか反映されない
- ・行政の意向が見えない
- ・自治基本条例の実行力があまりない。
- ・緑に加えて、夕摩の魅力がわからない。

▼ 情報提供 共有のアイデア

- ・市民の役割を市がきちんと提示する
- ・情報の提供、共有の推進(各部所の役割の明確化)
- ・市のデジタル化 → 情報配信、クーポン化も
- ・行政が市民の意思が市政に反映されたことをアピールする!!

▼ 市民の意見を伝える方法

- ・ネットをもっと活用して、負担の少ない参加を目指す!!
- ・市全体にマーケティングをして、意見をまとめHPにまとめる。
- ・情報伝達手段を確立させる
- ・市民の本件の問題意識を徹底させる!!!
- ・気軽に話し合える場づくり

【F班】

ワークショップの感想を皆さんから挙げて頂いた結果、意見交換の場や、行政側が意見を汲み取れるような場を増やしていくことで活性化されるのではないかという話となりました。ここでは、私達市民に何ができるのかということが1番の焦点となります。

まず、行政は市政についての情報をしっかりと伝える仕組み、広報等には本当に必要な情報を掲載する、市民はその発信された情報にしっかりと耳を傾け、それに意見を持ち、その意見を発信すること。次に行政が市民の声を吸い上げ、政策及び施策へ反映する。そして、きちんと反映されているか市民と一緒にチェックし、実際に行動に移して最終的に評価を行うことが挙げられ、このような枠組みがまず必要であるとまとめました。その中で、市民がどのような行動を起こせばよいかについてですが、広報の存在を知っていても目を通していない方は多いと思うので、発信された情報に耳を傾け、それを口コミで拡散し、共有していくことです。更に発信された情報やそのような場に参加する権利を活かし、自分達からも発信しながら皆でやっていくとよいと考えました。更に、メディアに騙されず、自分で考えること、その考えた情報を発信するのが1番よいと思います。議会に傍聴に行くというのは、自覚を高めるとの意味で必要なのかなと思います。先程お話にありましたが、家庭や学校等において子どもの方から意識を高めていくことで、親御さんにも伝わり、市民全体の意識が高まるだろうとの意見もありました。自治会への理解及び協力というのは、議会に傍聴に行くのと同様の意味で掲載しています。最後になりますが、市民全体のまちづくりを円滑に進めるためには、行政機関に丸投げするのではなく、市民主体の自覚を持ち、多摩市の誇りを持って市民からよい方向へ導いていけるようにすることが最も大事であるとの結論に至りました。

F

班

市民主体のまちづくりの推進

班でまとめた「市民主体のまちづくり」の考え方を記載してください。
話し合いの中で、市民主体のまちづくりに向けた具体的な仕組みづくりについての意見が出された場合は、その内容を記載していただいても結構です。

<ワークショップの感想>

若い方の参加がうれしい
他の年代の方と接してみても良かった
行動につながるよい機会

☆ この機会を増やしていくことで
活性化されるのでは?

市民主体のまちづくりのしくみ

行政

- ・情報を伝える仕組みづくり
- 透明化 (市役の見直し
市に必要な情報提供)



- ・市民の声をすいあげる
市長とのやり取りをせよ



- ・政策、施策へ反映



- ・評価

市民

- ・発信された情報に耳を傾ける。
- ・それを口コミなどで拡散していく。
- ・発信される情報を市民として活かす。
- ・参加する権利を活かす。
- ・メディアにたよらず自分で考える。
- ・議会にばり聴いに行く。
- ・家庭や学校等、教育の場を利用しての意見交換。
家庭での話しあい。
- ・自治会への理解、協力。

意見と発信

チェック!